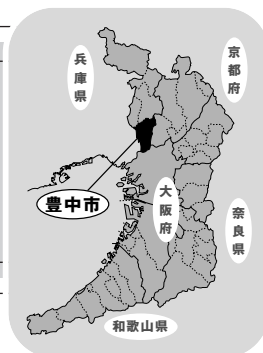


わたしのまちのPR

ピーアール

豊中市編



豊中市は、大阪北部近郊に位置し、古くは能勢街道と伊丹街道が交差する岡町周辺が原田神社の門前町としてにぎわい、周囲には田畑が広がる農村でした。

明治以降、現在の阪急電鉄の開通などを契機として、北大阪地域の中でも、早くから開発が進み、昭和11年に府内4番目の市として市制施行しました。

戦後は、大阪国際空港や名神高速道路、阪神高速道路、新御堂筋、中央環状線、北大阪急行などの交通網が整備され利便性が高まるとともに、庄内地区や千里ニュータウンなどの住宅開発により人口が増え、住宅都市、教育文化都市として発展してきました。

この豊中市の特徴や強みといったことについて、政策推進部企画調整室長の羽間^{はざま}さんにお話を伺いました。



市制70周年おめでとうございます。

これまでの豊中市の歩みについてお話をいただけますか。

ありがとうございます。本市は昭和11年10月15日に市制施行し、おかげをもちまして今年で70周年を迎えました。

「豊中」の地名が生まれたのは、明治22年のことです。町村制施行に伴い、摂津国豊島郡内の5村が統合されて、豊中村となりました。ちょうど豊島郡の中央に位置していたことから、名付けられたといわれています。

明治43年には、箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）が開通。大阪市に近いという地の利と、

起伏に富んだ丘陵地帯は絶好の住宅地とされ、早くから沿線各地で開発が進みました。

その後、昭和30年代に入ると、市南部の庄内地区では文化住宅やアパートが次々に建設され、阪急庄内駅前に豊南市場や商店街など活気ある繁華街が出現しました。北部には千里ニュータウンが誕生し、昭和30年から50年にかけて市の人口は3倍強と著しく増加しました。

一方で、社会教育分野では府内初の公民館設置（昭和23年）や「動く図書館」（移動図書館）の導入（昭和25年）といった独自の取組を早くから進め、教育環境の充実にも力を入れてきました。市民の文化活動も盛んになり、良好な住宅都市に発展するとともに、「教育文化都市」を標榜する自治体となりました。

北大阪急行・緑地公園駅付近から西側を望む
（中央が服部緑地）



ところで、豊中市には「日本で一番」が多いと伺っていますが、紹介していただけますか。

実は、本市は、**高校野球の発祥の地**なんです。日本で最初の全国高校野球は、本市で開催されました。

沿線の集客のため阪急豊中駅西側に建設された「豊中グラウンド」で、夏の甲子園として親しまれている「全国高等学校野球選手権大会」の前身である、「全国中等学校優勝野球大会」の第1回大会（大正4年）と第2回大会（同5年）が行われました。約2万㎡あったこのグラウンドは、今ではすっかり住宅地に姿を変えています。

昭和63年、第70回大会を記念して、「日本高等学校野球連盟」から高校野球発祥の地を顕彰するレリーフなどの寄贈を受け、当時のグラウンドの正門があった場所に、「高校野球メモリアルパーク」を整備しました。レリーフには、始球式を行う第1回大会の様子が刻まれています。

高校野球メモリアルパーク



高校野球のほか、日本で最初の高校ラグビーと高校サッカーの全国大会も、豊中グラウンドで開催されています。

大正7年、ラグビーフットボールと、アソシエーションフットボール（現在のサッカー）の合同大会として「第1回日本フットボール優勝大会」が開かれ、その後、第5回大会まで豊中で行われました。

「全国高等学校ラグビーフットボール大会」が平成12年に第80回を迎えたことを記念して、平成14年に全国高校ラグビー80回記念事業委員会から、大会発祥の地である本市にモニュメントが寄贈されました。まちの新しいシンボルとして、豊中駅前広場に設置しています。

また、これは日本で一番ではありませんが、世界

駅前のモニュメント



一ということで、ちょっとご紹介させていただきます。

約40万年前、全長7メートルもある巨大なワニが豊中を闊歩していたんです。昭和39年に、市北部の待兼山町にある大阪大学豊中キャンパスでこのワニの化石が発見され、世界で最も大きなワニの一つであることが分かりました。このワニは、地名をとって「マチカネワニ」と名付けられています。

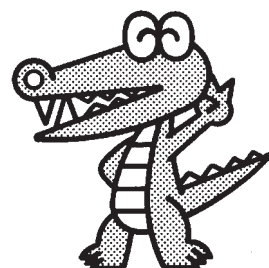
化石は、同キャンパス内にある「大阪大学総合学術博物館」に保存・展示され、その復元模型を、市施設「青年の家いぶき」で展示しています。

ワニ復元模型（大阪大学総合学術博物館の展示）



ワニキャラクター

（市制50周年で使われたマチカネワニのキャラクター）



また、このマチカネワニは、市制50周年のときのキャラクターになりました。また、市内の事業者の広告や菓子などの商品にワニのイラストが使われるなど、市民にも親しまれています。

高校野球、高校ラグビー、高校サッカーの発祥の地が豊中市というのは何か感慨深いものがありますね。

日本で一番ということでは、千里ニュータウンも、日本で最初の大規模なニュータウンとして全国的にも有名ですね。

そうですね。ご承知のように、本市と吹田市にまたがる「千里ニュータウン」は、日本初の総合的で大規模な住宅開発により、昭和37年にまちびらきをしました。道路や公園、学校、商業施設などが計画的に配置された理想的なモデル都市として注目を集め、日本万国博覧会の開催をきっかけに大きく発展し、昭和50年には、ニュータウンの人口は約13万人に達しました。

しかしその後、人口は減少に転じ、まちびらきから44年が経過した現在は約9万人。当時移り住んだ世帯の多くが高齢期を迎え、少子・高齢化、建物の老朽化、商業機能の低下などの課題を抱えています。

これらの課題解決への取組の一つとして、現在、千里中央地区では、民間活力の導入により、市の施設の建替えをはじめとする再整備事業を進めているところです。これは、本市や大阪府、(財)大阪府千里センター(現在は(財)大阪府タウン管理財団)が同地区に所有する土地(約5.2ha)や建物を活用して、民間事業者の提案によるまちづくりを進めて

千里中央地区再整備の完成イメージ



いこうとするものです。

高層住宅2棟(521戸)、大型商業施設(家電販売など)、療養型病院と有料老人ホームを建設する予定で、市の図書館や公民館などが入る複合施設「千里文化センター」の建替えや、バスターミナル・駐車場などの整備も行われます。新しい「千里文化センター」のオープンは平成20年、工事全体の完成は平成22年の予定です。

千里ニュータウンがまちびらきの時と同様に、成熟期においても全国のニュータウンのモデルとなることを期待しています。

このほか、市の主要施策はどんなものがありますか。

大阪国際空港周辺地域の移転跡地を有効活用することにより、「まちづくり」と「産業再生」を進めていく予定です。

同地域には、昭和45年に始まった国による移転補償事業の結果、未利用の国有跡地が点在しています。これらの跡地を活用し、①宅地を再編することで密集市街地の解消を図る「まちづくり」を進めるとともに、②事業用地の再整備を図ることで事業者を誘致し、交通の利便性を生かした「産業再生」を目指します。

なお、この計画は、地域が主体となる「自主・自立・自考」の取組により、地域の活力を再生するものとして、本年7月に国から地域再生計画の認定を受けました。

このほか、豊中市ならではのどのような取組を紹介していただけませんか。

市民の皆さんの豊中への愛着はたいへん深いと感じています。本市の特徴として、教育や環境、福祉、国際交流などさまざまな分野で市民活動が地道に続けられてきたことが挙げられますが、それは、豊中をより良いまちにしたいという思いの表れでもあると思います。

そのような活動の一つに、豊中の夏の風物詩として、また市民交流の場として定着している「豊中まつり」があります。今年で39回目を迎えたこのまつ

りは、平成9年に、「人と文化がふれあうまつり」をメインテーマに、市民自らが企画や運営を行う、「市民がつくる市民のまつり」として生まれ変わりました。毎年、数百人の市民がボランティアスタッフとして参加し、まつりをつくりあげています。

まつりは、阪急曽根駅周辺の公園や施設を会場に、市民活動の展示・発表や、兄弟都市の沖縄市の食と文化の紹介、ロックバンドのコンテスト、高校野球発祥の地にちなんだイベント、盆踊り、夜店と盛りだくさんの内容です。今年は2日間で延べ22万6千人の来場者がありました。

豊中まつり

(豊中の市民グループによる沖縄の伝統舞踊エイサー)



「市民のまつり」になって今年で10周年を迎えるにあたり、実行委員長が本市広報誌「広報とよなか」のインタビューの中で、こんなことを話してくれました。

「市民の中には、この10年ずっとまつりにかかわり続けている人たちもたくさんいます。事情で一旦離れても、また時を経て戻ってきてくれる人も多い。これはすごいことだと誇りに思います。まつり終了後の打ち上げ会場では、ふだんは接点のない高齢者と高校生ボランティアが、隣り合わせで話し込んでいたりします。会場に集まった人たちを見渡すとき、いつもまつりの持つ力を感じます。」

まつりを通じて出会いが生まれ、そのつながりが少しずつ広がってきています。これからも、歴史や文化を大切にしながら、このまちへの愛着を育み、多世代で感動を共有できるまつりであってほしいと願っています。

豊中まつり (盛り上がるステージ)



市民の皆さんのまちへの愛着とそこからみなぎる力強さが伝わってきますね。

では、最後に、今後の豊中市の方向性についてお聞かせください。

本年、市制施行70年周年という大きな節目を迎えました。今日に至る発展を支えてきた先人の知恵や地域に根付いた伝統を受け継ぎながら、未来を担う子どもたちが安全で安心して暮らせるまちづくりを、豊中のまちを愛する皆さんとともに進めていけることを願っています。

そのためには、2020年を目標とする第3次総合計画の基本理念である「人と地域を世界と未来につなぐまちづくり」の下、市民・NPO・事業者・行政が協働しながら、持続的に発展する都市づくりを進めていくことが重要です。

今後も、良好で質の高い住宅都市としてのブランドを維持しながら、新しい都市の魅力を加え、活発な市民活動や地域活動に呼応しながら、活力あふれる都市づくりを推進していきたいと考えています。

本日は、ありがとうございました。